

第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」を振り返って

石川県小松市 大村 健

7月末の七尾湾岸トライアスロンで優勝してから2ヶ月弱、珠洲、小松鉄人レースを通してステップアップし、9月からは週1回のスイム及びランの強化練習や合宿でスピード力をつけ、今回初めて国民体育大会に出場しました。結果は38位。自分の精一杯の力を出し切ったので悔いはありませんが、このレベルだと国体等のエリートレース(ドラフティングレース)では全く勝負にならないということを身にしみて実感しました。

大会出場にあたってスイム強化を第一に取り組み、大会直前にはプールで1500mを21分後半で泳げる泳力をつけました。レースでは何が何でもスイム集団に食らいつく覚悟で臨みましたが、レベルの違いは明らかで、後にバイク大集団となる選手たちから離れ、単独でスイムフィニッシュする結果となりました。彼らとは2分差、距離にして150m。前方で集団がスイムフィニッシュする様子も見えていたけど追いつけない。ただただもどかしい気分でした。

バイクは2人で40kmを交代しながら走りましたが、1周ごと(10km×4周)に第1～第3集団と差が広がっていることも分かりました。集団は6～10人以上で走っていて片側5kmは強風向かい風なので明らかに有利。もうこうなるとどうしようもない展開です。

ランは沿道の声援にも後押しされ自己ベストな走りことができましたが、ランの苦手な選手を3人かわしただけでレースとして競い合うことはできませんでした。

『1500mを20分以内で泳げるレベル』=『50mを40秒ペースで最後まで泳げる泳力』これが国体やエリートレースでバイク集団に入ってランで勝負をするための必須条件だと思いました。それを実感できただけでも出場した大きな意義があったかと思います。

今後、国体や国内エリートレースを目指す方々へ。

スイム出身の人が国体に出れば話は別ですが、そうでもなく普通にフルタイムで働く我々にとって、やはりスイムの強化を第一に練習に時間を充てる必要があります。これまでと同様の練習ではなく、高い意識と明確なターゲットを持って強化しないと上には上がれません。県の強化練習でもその点に特に重点的に、皆で考え、工夫し、実践すること、を今後の課題として取り組んで頂きたいです。

最後に、今回レースを通じて貴重な経験をさせて貰い、様々な方から応援を頂きました。練習会でランやバイクで引っ張ってくれた方々、最後まで献身的に応援とサポートをしてくれた予備選手の2人、レース当日石川県から応援に駆けつけてくれた方々、家族、チー

ム石川、石川トライアスロン協会、細かいところまでアドバイスをくれた監督やコーチ。皆さんの期待に答えられたかどうか分かりませんが、自分としては実力を余すことなく発揮し、楽しくレースできました。この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

以上